

日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会 水化学管理分科会
第21回 HWC標準作業会 議事録

1. 日 時 : 平成25年10月3日(木) 14:00~16:00
2. 場 所 : 日本原子力発電(株) 本店 2階 第4会議室
3. 出席者 : (敬称略)
(委員) 内田、高木、和田、小野、太田_外、久宗、上山(浦邊代理)
(常時参加者) 北島、山本、埴
(オブザーバー) 勝村
4. 配布資料 :
 - 21-1 第20回 HWC標準作業会 議事録(案)
 - 21-2 沸騰水型原子炉一次冷却系の腐食環境の定量評価方法に関する基本手順(案)(本文)
 - 21-3 沸騰水型原子炉一次冷却系の腐食環境の定量評価方法に関する基本手順(案)(附属書、解説)
 - 21-4 「HWC標準」の概念と原案の内容について
5. 議事概要 :

HWC標準原案の内容についてレビューした結果を報告、検討を行った。

 - (1) 出席者の確認
出席者の確認を行い、委員8名中7名出席しており、必要な定足数を満足していることを確認した。
 - (2) 第20回HWC標準作業会議事録確認
久宗幹事より、資料21-1「第20回 HWC標準作業会 議事録(案)」の説明があり、承認された。
 - (3) 標準手順を示す論文について
内田主査より、標準に記載された手順を示した論文が原子力学会欧文誌の査読を通過した旨の説明があった。
 - (4) HWC標準原案について
高木副主査、山本常時参加者及び和田委員から、本文、附属書及び解説のレビュー結果を資料21-2及び3を用いて説明した後、見直し後の内容を検討した。
 - ① 用語の定義欄について不要なものは削除する。
 - ② 原案中の用語を統一する。その際、JISとの整合を図るとともに、材料、プラント運転関係者の確認を受ける。
 - ③ V&Vでの誤差範囲について根拠を明示する。
 - ④ 附属書B-1についてはプライマリーのG値とわかるようにする。
 - ⑤ 解説1.2の内容は、定性的な傾向を説明する程度とする。
 - ⑥ 英文前書きを分科会前に用意する。
 - ⑦ 図中に英文表記が残っているものについて国語表記に修正する。
 - ⑧ 水の関与する反応の速度定数の値を確認する。
 - ⑨ 原案の構成を変更した際に生じた図番のずれが残っているので修正する。

- ⑩ ベンチマーク試験は短期水素注入調査と表記する。
 - ⑪ ベンチマーク計算は室温のみでなく、高温でも実施すべきと記載する。
- (5) 次回分科会でのHWC標準原案説明資料について
上山委員代理から説明資料の修正内容について説明があった。
- ① HWC標準の概念を説明して、その後に原案の内容を説明するように見直した。
 - ② まとめの関連文献の情報については確認する。
 - ③ 日本初の水質解析の唯一の標準であること、第三者にオーソライズを受けること、及び自主管理であることを理解していただく。
 - ④ V&Vの定義について原案とのずれ、誤字を修正し、今回のコメントを反映して見直す。
- (6) 今後の進め方
- ① 日立と東芝にて、標準原案の本文、附属書、解説について、今回の議論を反映した見直しを行い、10月23日までに事務局に提出する。
集約したものを再度メールベースでレビューする。
- (7) その他
- 次回（第22回HWC標準作業会）は、水化学管理分科会（11月5日か11日を予定）の後に開催することで調整する。

以上